

テーマ	要約5. 地域社会の特性を生かした子育て支援の研究
代表研究者	田園調布学園大学子ども未来学部教授 内藤知美
研究目的	川崎市麻生区の子育ての実態、社会資源の活用について、世田谷区玉川地域、横浜市都筑区、横浜市青葉区との比較し、麻生区の子育てをめぐる実態と特色、子育て支援の需給構造を明らかにする。
研究方法	<ul style="list-style-type: none"> ・麻生区の子育て施設のフィールド調査 ・麻生区と他の3地域(世田谷区玉川地域、横浜市都筑区、横浜市青葉区)との比較をウェブアンケート調査及び地域のインタビュー調査により実施。
主要な研究結果	<p>麻生区の子ども・子育て支援状況は、一戸建て中心の核家族で両親の協力ないし母親により、職場や保育所への利便を意識して子育てを行っている生活スタイル。不安・ストレスは若干低く、子育てにある程度の楽しさを感じている。</p> <p>安心・安全な場での外遊びができる環境を求めているが、子育てに関わる状況の把握や問題意識は相対的に希薄である。イベントに関心を示すが、子育て支援施設などの利用や認識は他地域に比べ低い。</p> <p>転居家庭が多く地域との接点が少ないにもかかわらず、子育ての社会資源や子育て仲間との交流や地域への助けを求めない。子育て中の居場所や情報へのアクセスが少ないため「孤立型」の育児に陥りやすい。</p> <p>これらから見て他地域以上に子育て支援の役割は大きく、まち保育の視点からの5つの提案。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①規模の小さい単位の身近な子育て・子育て支援の場(居場所)の創出 ②子育て初期からの積極的働きかけと子育てを学びあう子育て支援センター機能の充実 ③まち(地域)にある社会資源の掘り起こし ④まち(地域)を知り、親子とまち(地域)の人をつなぐ役割を担う地域子育てコーディネーターの配置 ⑤まち(地域)を知りまち(地域)に根差した情報発信とICT化